



伝統構法
に学ぶ

住まい 涼木

その7

文・荒野一星

第二部
「超高層から茅葺きへ」
池田武邦氏(建築家)

海軍士官学校を卒業し、第2次世界大戦末期の海戦すべてに従軍した池田さん。45年、最後の従軍時には艦を撃沈され、重油だらけの冷たい海に漂いながら、米軍の執拗な海面爆撃を躲し続け、九死に一生を得た。戦後、焦土と化した国土を復興させるのが、生き残った自分の使命と観じ、東大建築科へ。60年代後半、70年代、首都圏高層化の最前線で、霞ヶ関ビル、京王プラザホテル、他の設計を手がけ、建築家として一時代を画した。



公演中の池田武邦氏



会場ですべてに配布された
甘藷珠恵子さんの著書
「まだ、まにあうのなら」

いる。外に出た。凍えるような寒さ！でも何故か和んだ。自然の中に溶け込んでいく安らぎ、心地よさ、解放感！その日を境に、近代建築の極にまで達していた池田さんの意識エ

「祈り」||「意乗り」

6月12日、鹿島市のエイブルホールで開催された、夢木香10周年記念講演会。朝から激しい雨。開場横を流れる川は増水し、流れも速い。そんな中、130余名の聴衆は3時間に及ぶ講演に、熱心に耳を傾け続ける。講演終了後、開場一杯に沸き起こった拍手の渦。その響きには、確かな共感、気づきの深まりへの喜び、そして「祈り」(「意乗り」)があった。今回と次回、2回に分けて、池田武邦氏、角町正勝氏の講演内容をお伝えしたい。

ネルギーは、メビウスの帯状に180度回転し始める。陰極まりて陽となる。技術でつくり上げた人工環境の快適さを理想郷だと錯覚していたことの不覚！縄文時代から日本の先住民が持っていた、人間の存在を超えた自然の力と、自然がもたらしてくる恵みに対する畏敬と感謝の念。数千年にわたって培われてきた自然崇拜の心こそ、日本文化の根底を成すもの

した日本建築の原点。しかしこの家は、決して建築家としての池田さんの集大成でも到達点でもない。超高層という回り道をしながらも回帰してきた「出発点」に過ぎないのだ。

講師のお二人、熱心に耳を傾ける130余名の聴衆、この講演会を主催し、自然素材の家づくり、古民家再生にコツコツと取り組む、10周年を迎えた夢木香松尾代表および若いスタッフ、匠たち。そして会場の全員に配布された著作「まだ、まにあうのなら」の著者、甘藷珠恵子さん。参加者全員の拍手の渦の中で、会場全体に響き合っているものは「祈り」。

「祈り」||「意乗り」。小我にすぎない自我意識のハンドドルを手放し、宇宙意識とひとつになつて、それに乗っけてしまふこと。「生命の智慧」に委ねて、恐れずに行動していくこと。その時、人間のはからいを超えたものが働き出す。奇跡(「必然」)が起きる…。「3・11」は、正にそのことの啓示に他ならない。深く、そう観じた。

有限会社 夢木香

日本民家再生協会正会員
佐賀県鹿島市大字三河内甲 2847
http://www.yumekikou-happy.com
☎0120-835-832
TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334
E-mail:yumekikou@globe.ocn.ne.jp

第8回夢木香セミナー シックハウスセミナー 身近に潜む化学物質過敏症の実情

日時：7月17日(日) 13:30~16:00
場所：佐賀市交流センター
佐賀市白山2-7-1(エスプラッツ3F)
TEL:0952-40-0560
講師：NPOシグナルキャッチ代表 鹿兒島ひとみ氏
□参加費無料。
□お問い合わせとお申し込みは夢木香までお願いいたします。

なんとなく…
朝なかなか起きられない、
お腹の中が熱く、強い張りや便秘、貧血だが症状が出ない、突然怒りの塊が体内に入ってくる、人とコミュニケーションを取るのがいや等、書き出したなら書ききれないような多くの症状が、実は化学物質が原因だった。
子どもの不登校もシックハウスの場合がある。